

謹賀新年

小海町長 黒澤 弘

新年あけましておめでとうございませう。町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。昨年三月二十六日付けで小海町長としての重責を担わせていただき、瞬く間に九ヶ月余りが過ぎました。この間、町民の皆様には町政対しまして、深いご理解と心強いご協力をいただき心より感謝申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、六月二十八日から七月八日までの長雨の中、台風七号および梅雨前線の豪雨の影響により西日本を中心に犠牲者が二百人を超える、平成に入って最悪の災害が発生してしまいました。また九月六日未明に発生した最大震度七の北海道胆振東部地震では四十一名の犠牲者が出てしまいました。全国各地で多発する異常気象や台風、地震等の自然災害により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に、犠牲となられた皆様方のご冥福をお祈り申し上げます。そんな中、小海町においては、人的被害こそ無かったものの、台風二十四号による風倒木の影響で数箇所が道路が通行止めとなり、また八ヶ岳方面での総雨量が一五四ミリとなった豪雨により土

石流が発生し、二箇所の畑かん取水施設が大きな被害を受けてしまいましたが、道路は深夜の素早い対応により通行止め解除となり、畑かんは懸命な仮設の復旧作業により、野菜シーズンには大きな影響も無く済みしました。今年、施設の完全復旧に取り組み、野菜作りに影響の無いよう進めてまいります。昨年の農業は、夏場の猛暑による高温障害のため出荷量は減ったものの、価格が好調に推移し、小海支所管内での総売上げは、例年以上の二十八億円となり、農家の皆様には、ご苦労が報われる結果となり本当によかったと思っております。ただ畑かん施設が無い地域では、本当にご苦労なされたのではないかと推察するところでありませう。

町は、災害時のエネルギー対策として、中部電力、長野県石油商組合と電気、燃料の供給の速やかな確保にむけて協定を結びました。また、ふるさと納税の返礼品として「小海郵便局の見守り訪問サービス」を追加しました。四月より開所の特別養護老人ホーム「こうみの里」等、過疎地の高齢者支援サービスの充実を図ってまいります。四月にはレストハウスふるさ

と、十月には農産物加工直売所を町としてははじめて民間の指定管理者制度を導入しました。両施設とも運営は順調に推移しており今後更なる繁盛を期待するところとす。

私の選挙公約は、「積極的に挑む小海町」「元気な町づくり」ということで三つのキーワード「挑戦」「新鮮」「実行」を提案させていただきました。まず挑戦ですが、私も一昨年来て来た中で、常に挑戦し続けることの大切さを学ばせていただきました。そして今般小海町でも「小海町チャレンジ支援事業」の創設をし、町民参加型町政の実現を図り、町の活性化のため自主的、発想豊かで、かつ発展性ある取組に要する経費に

対して支援してまいります。挑戦できる町」「挑戦する人を応援する町」「絶えず挑戦し続ける町」を目指します。次に「新鮮」ですが、何事も新鮮である事が大切であると考え、町民目線の行政を推進してまいります。まず、その一歩として「町づくり推進会議」を開催し、三回の会議の中で町民の皆様の新鮮な意見を拝聴させていただきました。具体的な施策については今後順次お示ししてまいります。三つめは「実行」です。何も実行が伴わなければ何の進歩もなく、何ひとつ実現しません。私が先ず取組み実行に移したことが、職員

育成です。朝礼のラジオ体操、そして全職員との一対一の個別面談、更に昨年の九月二十一日〜十二月までの四回にわたる全職員参加による職員研修、また他町村との職員交流等々を行ない、職員が自分の町を客観的に見ることができ、現在の小海町の善し悪しを見極め、悪しきところは改め、良いところはのびて行き、特色のある町にしていくことを実行してまいります。

昨年四月二十八日に中部横断自動車道が佐久南インターから八千穂高原インターまで開通し、佐久市はもとより、上田市、長野市方面へのアクセスが素晴らしく改善されました。長期にわたる中央への要望と、地元の大

きな協力が実を結んだ結果、目的地までの運転時間の短縮はもとより、安全で快適な交通が確保でき、本当に素晴らしい道路となりました。町としまでも八千穂高原インターから長坂ジャンクションまでの三十四キロの残された未着工区間についての早期着工を期待します。また、予定工事ルート帯が三キロから一キロに絞られ、小海町のインターチェンジの位置も大まかではありますが示され、過日役場において行われた国・県の説明会では一五〇名を超える大勢の町民の皆様に参加いただき、また活発な意見も出され、有意義な説明会となりました。今後、早期着工、早期開通を目指し、ひきつづき活動を推進してまい

りますので、町民の皆様の強いご協力をお願いいたします。また、八千穂高原インターより一四一号に向かう車の約八十%以上が小海方面への車であり、一四一号の小海町区間の交通量は増大しており、町にとっても、大きなビジネスチャンスではないかと考え、一四一号沿いに道の駅を兼ねた小海発東京、又は東京発小海の高速バスの発着所の新設を目指します。

町長就任以来、初となりました町内十一地区の懇談を開かせていただき、全地区の皆様と直接の対話による意見、要望を頂きました。今後の町政の運営に大いに参考となり役立てたいと思っております。

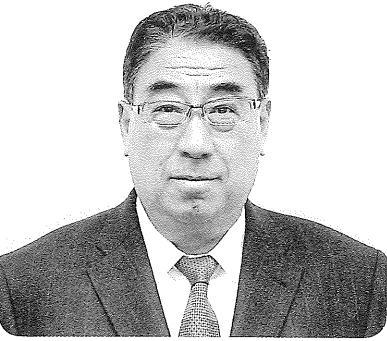
今年、新井前町長に礎を築いていただいた健全財政と地方創生総合戦略、そして第五次長期振興計画の最終年で引き継いだ計画の総決算ともなる年でもあります。充実した素晴らしい結果となりますようしっかりと取り組む事はもとより、第六次長期振興計画の作成に積極果敢に臨んでまいります。もう一つ「憩うまちこうみ」事業も仕上げの段階によりやくなりました。この事業は、主に県外企業の社員の健康管理を経営の視点で取り入れていただき、町の自然文化、食事を提供する事で、業務の効率化、生産向上、そして社員の

定着化による離職率の改善、医療費の削減、労働力の確保につながります。すでに数件の申し込みがあり観光を含めた大きなPRとなります。

また新年度から、「渉外戦略」の設置を考えており、商業の活性化、特に小海駅前を中心とした商店の再構築を軸に企業の保養所、研修施設の誘致、新規就業者や移住定住の促進、特産品の開発販売、観光の充実を図り、売込他全般を強く元気に進めてまいります。

教育に関しては、小中学校へのエアコンの設置の他、町内在住者の奨学金の返済に対し補助金を交付するとともに、大学等への進学時における家庭の経済負担を軽減するための「小海町大学等進学支援金」の交付も考えています。

結びに新しい年がすべての町民の皆様にとって、健康で幸多い年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



小海町長 黒澤 弘